

1 学年だより

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 真代治

縁は切らない NO3

打算という言葉があります。打算とは、自分にとって得か損かを考えて行動することです。しかし、損、得は絶対的なものではありません。世の中には、自分にとって得なことでも全体には損なこともありますし、今は、得をしたと思っても、長い目で見ると損をしていることもあります。損得とはその時点での価値観であり、普遍的なものではないと思います。ですから、人間関係も打算的に働きかけたら味気ないものになってしまいます。

私が中学2年生の時に、社会科担当の国見先生が授業中に熱心に話してくれたことが今も心に残っています。その話の内容は、「人生の中で、人と出会う数は限られている。生涯で何人の人と知り合いになれるか考えたら、数百人もいれば多いほうだと思います。ですから、出会った人との縁を大切にしてください。」という話でした。

地球上に約70億人の人が住んでいますが、挨拶を交わす顔見知りの人は何人いるでしょうか？城山中学校の1年生の在籍数は86名です。86名の生徒全員と話をした人は少ないでしょう。まだ、話したこともない人が多くいると思います。同じクラスにならないければ、卒業まで話さない人もいると思います。同じ校舎の中にいるのに全員と顔見知りになることは案外と難しいものです。そう考えると、生涯で顔見知りになって挨拶を交わすような関係になれるは、数百人ぐらいだと思います。人との出会いはこのように限られた狭いものだと思います。ですから、今出会った人はとても大切な人だと思います。まして、同じ部活、同じクラス、などの同じ組織で出会えた人は縁が深いのだと思います。せっかくの巡り合えた縁を簡単にその時の感情や打算的な感覚で切ってしまう人がいますが、縁は自分から切ってはいけません。自分から切った縁は、再びつながることが難しくなります。相手が切ってきた縁は、またつながることもありますが、自分から切った縁は、戻ることは難しいです。縁は切られても、自分からは切るものではないのです。

私は約50年前に西湘高校を卒業しました。当時、クラス数は9クラスでした。学年の人数が450人で女子が50人、男子が400人でした。中学校の時の国見先生の話聞いて、私は中学校の同級生全員（200人）と話をして友達になりました。（初恋の女の子に話しかけるのが一番恥ずかしかったのを覚えています。）高校に進学しても、せっかく知り合うチャンスのある450人の人とできる限り話そうと入学式の時に決心しました。そして卒業するまでに、男子生徒の400人の全員と話することができました。

裏に続く

私は現在、書道、ドラムなどたくさんの習い事やサークルに加入して休日に楽しんでいます。先日、あるサークルで、隣の人から話しかけられました。「すみません、あなたは、何年生まれですか?」「私ですか、昭和33年生まれですよ。」と答えると、「私と同じ生まれ年ですね。どこの中学校でしたか?」と聞かれたので、「千代中学校です。」とほほ笑んで答えました。すると「そうなんですね。千代中学校で有名な人といえば……。喜代治って知っていますか?」と聞かれたので、びっくりしながら「私が喜代治です。」と答えるとお互い高校時代にタイムスリップして、旧友であることを確認しました。それから、そのサークルで、彼と再開するのが楽しみになりました。彼とは、高校三年間、常に仲が良かったわけではありません。でも、私から彼との縁を切ることはしませんでしたし、彼も私との縁を切ることはなかったです。お互い、距離が遠くなった時もありましたが、友達の間を切ることはありませんでした。卒業して約50年して、再開して楽しく話せるのも友達の良いところです。縁を切っていたら、お互い気まずくなって終わったと思いますし、彼が「喜代治って知っている」などと私の名前を出すことはなかったでしょう。縁は人の人生を豊かにしてくれます。今、教室にいる友達を大切にしてください。50年後に会っても、「懐かしいね」と笑いながら話せる友を失わないようにしてください。

小学校、中学校、の友達を大切にしましょう。縁は、その人にとって意味のある人だから出会っています。意味のない縁はありません。クラスの仲間との縁を大切に、1年生を終わらしましょう。